

新軍事基地 沖縄を再び戦場に させないために NO! の声を



自民党政府は、戦後80年余、米軍基地に苦しめられ続けた沖縄県民に対し、新たな米軍基地建設を押しつけてきました。宜野湾市の市街地にある米軍普天間基地の移設という名目での、名護市辺野古・大浦湾の美しい海を破壊する新たな米軍基地の建設です。30年前に持ち上がったこの新基地建設計画に対し、沖縄県民は保守・革新・中道の政治的立場を超えた「オール沖縄」の反対運動を繰り広げ、県知事選挙や県民投票でその民意を示してきました。

残念ながら9月13日投開票の沖縄県知事選挙では、辺野古新基地建設反対をがんばり続けた玉城デニー氏が敗れ、高市政権お抱えの古謝げんた氏が勝利しました。しかし、「新たな基地はいらない」の広範な民意がなくなったわけではありません。

基地建設ストップ! 軍拡反対、税金の無駄遣いやめろの声を、沖縄県民とともに全国であげましょう。

政府による軍事化ごり押しは許さない

高市政権は沖縄を軍事要塞化し、戦場にしてでも、アメリカの戦争に協力する姿勢を露わにしています。政府の意向に沿う新たな県知事の誕生で、長射程ミサイルの配備や空港・港湾の軍事化がごり押しされる危険があります。「NO!」の声を強めましょう。



辺野古新基地建設工事の中止と 普天間基地撤去を求める署名にあなたも!



完成見込みない新基地建設の費用は 日本の税金で 環境破壊のみが進む無謀な計画

大浦湾側の広大な軟弱地盤の改良工事は一向に進まず、辺野古新基地建設の完成の見込みは全く立っていません。進捗は今も土砂投入予定の17%程度。一方で、税金は政府予定費用(9300億円)の7割を投入。完成までに何兆円かかるかわかりません。

大浦湾の地盤改良工事のための砂杭7万1000本の打ち込み作業は遅れに遅れ、さらには水深70~90mに広がる軟弱地盤を固める技術はなく、環境破壊を進めるだけの暴挙です。

普天間基地 返還しない可能性も ——新基地建設「危険性除去」 の名目もウソ

「世界一危険」とされる普天間基地問題の「唯一の解決策」として進められた辺野古新基地建設。しかし、米政府は仮に新基地が完成しても、緊急時に米軍が使用する長距離滑走路が確保されない限り、普天間基地は返還しないとしています。新基地建設の名目である「普天間基地の危険性除去」がうそであることは明らかです。基地建設は直ちにやめよの声を、沖縄県民とともに全国であげましょう。

日本平和委員会

2026年9月発行

一人ひとりの平和の願いをもとに行動する平和NGOです
「平和新聞」(月2回刊)、「平和運動」(月間)発行中

<http://j-peace.org/> (X) (f)

